法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-05-31

研究報告

イトウ / 伊藤，陽一 / 増田，壽男 / 鷲見，誠良 / 小澤，光利 / 原，伸子 / 森，廣正 / 菊池，道樹 / 奥山，利幸 / 佐藤，良一 / 長原，豊 / 田村，晶子 / 後藤，浩子 / 佐柄，信純 / 西澤，栄一郎 / 武田，浩一 / マスダ / ツルミ / オザワ / ハラ / モリ / キクチ / オクヤマ / サトウ / ナガハラ / タムラ / ゴトウ / サガラ / ニシザワ / タケダ

(出版者 / Publisher)
法政大学経済学部学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
The Hosei University Economic Review / 経済志林
(巻 / Volume)
72
(号 / Number)
1-2
(開始ページ / Start Page)
395
(終了ページ / End Page)
421
(発行年 / Year)
2004-08-10

《研　究　報　告》

伊　藤　陽　一

この4年間の研究と作業は，以下のように5区分できるかと思う。

1．統計と国際的経済･社会問題との関連に関する重要論文の紹介と論評・案内

① 「統計と人権および開発—IAOS 2000をめぐって」『研究所報』（法政大学日本研究所）No. 27，2001年7月

② 「国連ミレニアム開発目標と統計ー翻訳と案内」『研究所報』No. 30，2003年10月

2．統計の品質をめぐる国際論調の紹介と論評

① 「統計の品質に関する総合的な枠組みの提示ー政府統計における品質に関する国際会議（The International Conference on Quality in Official Statistics)ーストックホルム，2001年5月14—15日ー」『統計学』第80号，2001年3月【これを③に収録】

② 「『統計の品質論』と統計制度の品質をめぐって」経済統計学会第44回全国総会（大阪・阪南大学）での報告時にフルペーパーを配布（これを③に収録）2000年9月

③ 翻訳と論文（千葉敦司と共訳）「『統計の品質』をめぐって—翻訳と論文(2)」『統計研究参考資料』（法政大学日本統計研究所） No. 79，2002年9月【この資料を配布しながら，「統計の品質論をめぐる最近の動向」を経済統計学会第46回全国総会で報告。要旨集，2002年9月】

3．世界銀行の貧困統計とUNDPの諸指標の論評

① 「世界の貧困に関する統計・統計指標—世界銀行と国連開発計画（UNDP）の統計を中心に」近・藤江編『日本経済の分析と統計』北海道大学図書刊行会，第9章，2001年7月

② 「世界銀行等による貧困統計—アジアに注目しながら—」『研究所報』No. 28，第4回日本・中国経済統計国際会議特集所収，2002年03月，【これは，2001年9月に法政大学多摩キャンパス国際会議場で開催された，上記会議を収録したものである。会議時に報告要旨集が配布されている】

4．ジェンダー統計研究と作業

① （Yayoi Sugihashiと共著）“The Current Gender Statistics Situation in Japan and Measures for Further Development”『統計学』第79号，2000年9月

【この論文は，国連統計部から求められた2000年のNYでの「北京＋5」会議の「ジェンダー統計」セッションでの報告を一部補強したものである】

② 翻訳と解説（橋本美由紀と共訳）「無償労働と有償労働のつながり」『統計研究参考資料』No. 71，2001年3月

③ 「地方自治体におけるジェンダー統計について」経済統計学会第45回全国総会（東京）においてフルペーパーを配布。要旨は，同予稿集に収録。2001年9月

④ 「ジェンダー統計をめぐって—ジェンダー統計の理論・運動と課題—」『教育学研究室紀要—〈教育とジェンダー研究〉』（女子栄養大学）第4号，2001年11月

⑤ 翻訳と論評「ECE地域におけるジェンダー統計ウエッブサイトの構築—関係報告書の翻訳と論評」『統計研究参考資料』No. 75，2001年11月

⑥ （共著）『性別データの収集・整備に関する調査研究報告書』独立行政法人女性教育会館，2002年８月。【伊藤が２年間にわたって座長をつとめた女性教育会館の研究会での第１年度の成果。内閣府委託調査作業であった。】

⑦ （水野谷武志の協力）「専門的技術的職業における性別職務分離と無職女性の就業意識」下記⑧Ｂ，最終報告書に収録，2003年３月【この論文は，ミクロ統計データ活用研究会（科学研究費補助金グループ）を通じて利用可能になった「就業構造基本調査」のリサンプリング集計表を利用したものであり，この研究会で報告した。】

⑧ 編集－Ａ：『ジェンダー統計関係論文等（日本）集成』（GSG 研究参考資料 No. 1—No. 3）法政大学日本統計研究所気付け，2001年—2003年３月，Ｂ：『ジェンダー統計研究の新展開と関連データベースの構築』（平成13—14年度科学研究費補助金研究結果報告書）

【これらは，伊藤を代表者とする科学研究費補助金グループの参考資料と最終報告である。このプロジェクトは，プロジェクト内研究会の他、国際・国内学会での研究報告や論文作成，講師活動等を多様に展開した。】

⑨ 共編著（女性教育会館･杉橋やよいと）『男女共同参画統計データブック：日本の女性と男性　2003』ぎょうせい，2003年８月【これは，女性教育会館の研究会の第２年度の成果である。】

【なお，個人の作業ではないが，2002年10月から2003年７月にかけて，内閣府男女共同参画会議／苦情処理・監視専門調査会の委員をつとめた。伊藤はこの期の第22回から29回会議のうち，27回会議まで参加して２度の報告をし，討議に参加した。その後は e-mail 等で意見を提出した。議事録は公開されている。同調査会の報告書『男女共同参画にかかわる情報の収集・整備・提供に関する調査検討結果について』（2003年７月16日）は，政府統計におけるジェンダー統計の主流化に向けての重要文書であると考える。】

5．その他

① 「第53回 ISI 総会（大韓民国・ソウル）」『統計学』第81号，2001年9月

② 「第28回 SCORUS 参加報告」『統計学』第83号，2002年9月

以上のほか，学術会議：統計シンポジュームでの報告，女性教育会館フォーラムでのパネリスト，学会の例会での報告，厚生労働省や大阪府ドーンセンターでの報告・学習会等があるが詳細は省略。

なお，2003年度に海外在留の機会を与えられて University of Maryland — College Park に滞在している。この期間の半分ほどを，日本でやり残した宿題としての上述作業の一部にあてたが，その後，自分の本来テーマとしている合衆国連邦政府統計制度・政策にとりくんでいる。植民地時代から1900年代半までの歴史に関して，NARAI. II 等で原資料をフォローしているが，日時がすごい速さで飛んでいくという感は，これまで数回書いてきたこの研究報告の中で最も強い。

増　田　壽　男

最近4年間（2000年4月から2004年3月まで）に発表した論文等は次の通りです。

① 「市場メカニズム信仰批判上・中・下」（『労働法律旬報』旬報社　1476号　2000.3.25，1478号　2000.4.25，1479号　2000.5.10）

② 「戦後日本資本主義の構造的特質」（産業構造研究会編『現代日本産業の構造と動態』（新日本出版社）2000.3.30）

③ 「グローバリゼーションに関する若干の考察」（神奈川大学『商経論叢』36巻3号　2001.1）

④ 「経済成長と新エネルギー」（『学術の動向』日本学術会議 6巻4号 2001.4）

⑤「レーニン『帝国主義論』の意義と限界」(資本論体系10『現代資本主義』(有斐閣) 2001.4)

⑥「長期大不況」から脱しきれない日本経済」(増田壽男・吉田三千雄編『長期不況と産業構造転換』(大月書店) 2003.4.1)

⑦「大不況とグローバリゼーション下でのわが国の自動車産業の大合理化」(同上)

⑧「ニューエコノミーとバブル経済」(『労働法律旬報』旬報社 1558号 2003.8.25)

⑨「ポスト冷戦と『21世紀型危機』」(『経済志林』第71巻 4 号 2004.4.3)

⑩ 'Structural Characteristics of Japan's Foreign Trade', "The Enlargement of the European Union toward Central Europe and the Role of the Japanese Economy", AULA 2002.

鶴 見 誠 良

2000年 4 月から2004年 3 月までの業績は以下のとおりです。

編著

「アジアにおける金融危機とビッグバン」『アジアの金融危機とシステム改革』第 1 章所収, 法政大学比較経済研究所, 2000年 9 月

"Financial Crisis and System Reform in Asia," in Tsurumi ed., *Financial Big Bang in Asia,* (the First Chapter), Ashgate, Aldershot UK, 2000

「戦間期における金融危機とインターバンク市場の変貌」伊藤・真見・浅井編『金融危機と革新－歴史から現代へ』第 3 章所収, 日本経済評論社, 2000年 7 月

論文

「近代の貨幣・信用」桜井英治・中西聡編『流通経済史（新体系日本史12)』V-2章所収，山川出版社，2002年8月

「グローバリゼションと途上国の経済発展－アジア金融危機とその教訓」『歴史と経済』第179号，2000年4月

"Financial Development and Capital Stucture in 19th Century and the USA,"『経済志林』第71巻4号，2004年1月

報告

"Financial Development and Capital Stucture in 19th Century and the USA," Economic History Association 61th Annual Meeting, Philadelphia, October 26, 2001

「グローバリゼーションと途上国の経済発展」土地制度史学会，2002年春季大会，千葉大学，2002年10月27日

小　澤　光　利

前回の研究業績報告（本誌第68巻第1号掲載）以降，2000～2003年度の期間において公表された私の著作は，以下の通りである。

なお，この間，2001年度本学国内研究員制度による研究助成を得ることができた。

論文

(1) 「経済理論の歴史的性格－A・シュピートホフの経済学方法論をめぐって」，『経済志林』第69巻第1号，2001年7月，所収。

(2) 「長期波動論と『資本主義の全般的危機論』：再考」，『経済志林』第70巻第1/2合併号，2002年7月。

資料

(3) 「アルトゥール・シュピートホフ『信用政策』—経済学における理論・歴史・政策の総合的把握への一資料」,『経済志林』第68巻第1号, 2000年7月, 所収。

翻訳

(4) デイヴィッド・マクレラン「当時と現在：マルクスとマルクス主義」,『マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究』第36号, 八朔社, 2001年3月。

(ただし, 実際の出稿は5月, 刊行は7月であり, 当該発行日付は編集上の理由によるものであることを敢て付記しておきたい。)

David McLellan, Then and Now: Marx and Marxism, in *Political Studies, Vol. 47 Number 5* (December 1999), published by the Political Studies Association and Blackwell Publishers の完全邦訳。

辞典項目

(5) 「キチン循環　Kitchin cycle」

(6) 「クズネッツ循環　Kuznets cycle」

(7) 「コンドラチェフの波　Kondrachieff wave」

(8) 「ジュグラー循環　Juglar cycle」

(9) 「大不況　Great Depression」

以上, 金融辞典編集委員会編『金融辞典』, 大月書店, 2002年4月, 所収。

書評

(10) 「市原健志著『資本主義の発展と崩壊—長期波動論研究序説』中央大学出版部, 2001年」,『経済志林』第69巻第2号, 2001年9月, 所収。

その他

(11) 「思い出の大杉君」，追悼文集刊行会編『レクイエム大杉賢明さんの想いで』㈲ティーディーエス，2000年12月。

原　　伸　子

(1) 論文

① 「「1861～63年草稿」における資本蓄積論」，服部文男・佐藤金三郎編『資本論体系の成立』有斐閣，2000年12月。

② 「「市場と家族」再考(1)」，『経済志林』Vol. 69，No.3，2001年。

③ 「市場と家族・コミュニティ」，法政大学比較経済研究所・佐藤良一編『市場経済の神話とその変革――〈社会的なことの復権〉』法政大学出版局，2003年。

④ "Rethinking Market and Family", *Journal of International Economic Studies* (2004)，No. 18，91-102。

(2) 翻訳

① トニー・ローソン「現代経済学再考の必要性について――形式主義的モデル化からリアリスト社会理論の構成へ」，『経済セミナー』no. 559，2001。

② （共訳）スティーブ・フリートウッド著『ハイエクの社会経済学』法政大学出版局，近刊。

(3) 書評

竹永進編訳『ルービンと批判者たち――原典資料20年代ソ連の価値論論争』（情況出版，1997年），『経済志林』Vol.68，No.2，2000年11月。

(4) 学会報告

「「市場と家族」再考」，経済理論学会第49回大会報告（於：駒澤大学）

(5) 研究プロジェクト

① 法政大学比較経済研究所

・2000～2001年「市場経済の神話プロジェクト」（責任者：佐藤良一）参加。

その成果は佐藤良一編『市場経済の神話とその変革』（2003年）として刊行。

・2001～2002年「ジェンダー研究—理論・歴史・政策」（責任者：原伸子）参加。

その成果は原伸子編『ジェンダーの比較研究—理論・政策・文化（仮題）』として2004年秋に刊行予定。

② 科学研究費補助金プロジェクト

基盤研究(c)(2)課題番号14530073

「グローバリゼーションとジェンダー——社会経済構造の変化とジェンダー政策」（研究代表者　原伸子）。研究成果報告書は，2004年9月提出予定。

森　　廣　正

2000年4月から2004年3月までの過去4年間の研究・業績は，以下のとおりである。

1. 研究経過等

2000年4月からの1年間の研究活動としては，1996年4月に開始し2000年3月にほぼ終了した法政大学比較経済研究所の「国際労働力移動」研究プロジェクトに関連する仕事がある。この研究プロジェクトの

成果として公表した『国際労働力移動のグローバル化』―外国人定住と政策課題―（法政大学比較経済研究所シリーズ15　法政大学出版局2000年3月刊）の合評会を2000年6月17日(土)午後4時～6時迄市ヶ谷キャンパス，ボアソナードタワー12階1202教室にて，関根政美（慶応義塾大学）と井口泰（関西学院大学）両氏の書評報告を中心に開催した。同時に，同年度末（2001年3月）に，研究所の英文ジャーナルへのプロジェクト関連論文特集の掲載に努めた。

また，2000年5月からの2年間，社会政策学会編集委員会委員長に従事し，社会政策学会改革の一環として，『社会政策学会誌』誌面の改善に携わった。さらに，従来はふたつの出版社から発刊されていた同誌の発刊元をひとつの出版社に統一する仕事に従事した。この詳細については，当該年度の『社会政策学会誌』に掲載されている「学会記事」ならびに「編集後記」等を参照されたい。

2003年4月から2004年3月まで，在外研修員制度に基づき，ドイツ連邦共和国ルール大学（ボッフム）社会学部に客員教員として赴任した。この1年間の主な研究課題は，1957年1月から1965年3月まで，数次に渡り西ドイツ（当時）のルール工業地域にある各炭鉱に「外国人労働者」として派遣された日本人炭鉱労働者問題である。この研究に着手したのは1991年秋であり，その研究成果の一部として「西ドイツにおける日本人炭鉱労働者」（法政大学経済学会『経済志林』第62巻第3･4号1995年3月所収）がある。その後，上記の比較経済研究所のメインプロジェクトに携わったこともあり，この研究は断片的に継続せざるを得ない状況にあった。

今回の在外研修期間中に，ボッフムにあるドイツ鉱山博物館資料室およびルール地域図書館等での資料収集，ドイツに在留している元日本人炭鉱労働者の方々を訪問して聞き取り調査をすることができた。現在，まとめの段階に入っている。

なお，2004年2月3日(火)午前10時～12時，ルール大学社会学部

GC05/608 号室において，以下のテーマで研究報告を行った。

"Internationale Arbeitsmigration: das Fallbeispiel Japan"

2．過去4年間の具体的な研究業績は，以下のとおりである。

2001年 3 月　"International Labor Migration" In: "Journal of International Economic Studies" No. 15, The Institute of Comparative Economic Studies, Hosei University

2001年 6 月　「外国人労働者」法政大学大原社会問題研究所『日本労働年鑑』第71集，2001年版　所収

2002年 6 月　「外国人労働者」同上『日本労働年鑑』第72集，2002年版　所収

2002年11月　「日本における外国人労働者問題の研究動向」法政大学大原社会問題研究所『大原社会問題研究所雑誌』No. 528, 2002年11月号　所収

2003年 6 月　「外国人労働者」法政大学大原社会問題研究所『日本労働年鑑』第73集，2003年版　所収

2003年 6 月　「外国人労働者と社会政策」石畑良太郎・牧野富夫編著『新版　社会政策』ミネルヴァ書房（2003年）所収

菊　池　道　樹

2000—2004年

1．論文

1）Potentialities of rural industrialization in Vietnam; Lessons from China's experience.

Tokyo workshop for the Joint Vietnam-Japan research, Phase3, 26-27 July 2000,Tokyo

2）「デフレ下の成長」『中国年鑑2000』（中国研究所編），草土社，2000年7月。

3）Potentialities of Co-existence of East Asian Countries, Inha University (KOREA), 'Conference Proceedings-A New Paradigm for Economic Cooperation in Northeast Asia', December, 2000.

4）Varieties of rural industrialization in China: Lessons for Vietnam, (Vietnam-Japan Joint Research Project, On the Economic Development Policy in the Transition Toward a Market-oriented Economy in Vietnam, December 8-9, Hanoi)

5）「ヴィエトナムにおける農村工業化の可能性」『ヴィエトナム国市場経済化支援計画策定調査 最終報告書 第1巻』，国際協力事業団，2001年3月。

6）「デフレ含みの高成長」『中国年鑑2001』（中国研究所編），2001年8月。

7）「民間企業の発展と地方政府の役割—移行期における中国，温州の事例—」，『経済志林』，(1)第69巻第3号，2001年12月。

8）「地方分権と経済成長についての制度分析」『アジア諸国のグローバル化，地方分権化動向調査』，62～68頁，財団法人 海外投融資情報財団，2002年3月。

9）「WTO元年，一人勝ちのパフォーマンス」『中国年鑑2002』（中国研究所編），草土社，2002年7月。

10)「民間企業の発展と地方政府の役割—移行期における中国，温州の事例—」，『経済志林』，(2)第70巻第3号，2002年12月。

11)「温州の企業家達」『アジア諸国のグローバル化，地方分権化動向調査』，105～122頁， 財団法人 海外投融資情報財団 2003年3月。

12)「財政下支え型成長メカニズムの定着」，中国研究所編『中国年鑑2003』，草土社，2003年8月。

13)「農村地域開発と地方政府」，『中国の市場経済化と国家の変容—党と国家の制度改革と機能転換に関する調査研究』（研究代表者，太田勝洪法政大学法学部教授，平成13—15年度科学研究費補助金，研究成果報告書），2003年11月。

2. 書評

小林謙一編，『中国沿海部の産業発展と雇用問題』，第三文明社，（大原社会問題研究所，『大原社会問題研究所雑誌』，528号，2002年11月）

3. その他

1）「要覧・統計，工業」『中国年鑑2000，2001，2002，2003』（中国研究所編），草土社。

2）「8年振りの花火と爆竹」『中国研究月報』，第55巻第8号，2001年8月号。

奥　山　利　幸

Market Structure as a Source for Business Cycle，2000年09月，日本経

済学会2000年度学会報告

取引過程と価格形成の理論—サーベイと今後の方向性—，2001年03月，『経済志林』第68巻第3・4号

金子勝氏の問題提起をめぐって—近代経済学からの一考，2001年12月，『経済志林』第69巻第3号

シナジーの経済分析，2003年03月，『経済志林』第70巻第4号

市場のミクロ的分析としての戦略的市場ゲーム：導入編，2004年03月，『経済志林』第71巻第4号

佐　藤　良　一

2000年4月から2002年3月までの二年間は，比較経済研究所専任研究員として，共同研究プロジェクト「市場経済の神話とその変革」を組織・運営した。2002年度はその共同研究の取りまとめに専念し，2003年3月に法政大学出版局からその研究成果を刊行した。

2003年4月から一年間は，ケンブリッジ大学で在外研究（Visiting Scholar / Faculty of Economics and Politics, Visiting Fellow / Clare Hall）をおこなった。

この4年間の研究活動として刊行したのは，以下の通り。

□著書

編著『市場経済の神話とその変革—〈社会的なこと〉の復権—』法政大学出版局，2003年

□論文等

[1]「マクロ経済学の何をどう教えるか」『経済学教育』No. 19，2000年4月

[2]「金融危機とジェンダー関係」『経セミ』2000年10月号

[3]「概念の〈新しさ〉とは」『情況』2001年8・9月号

[4]「ノート：新たなSSAの〈形成〉」法政大学比較経済研究所，*Working Paper* No. 100.，2001年8月

[5]「経済理論における主体」『進化経済学論集（第6集）』2002年3月

[6] (with G.Valatin) "An Essay on *Humanizing* the Market and Economic Discourse", *Journal of International Economic Studies,* No. 18，2004

[7] (with K.Shimizu) "'Efficiency' from the Perspective of the *Social*" (PEKEA 報告)，2003年12月

[8] "Okishio's Theory of Accumulation in the Tradition of Heterodox Economics," Political Economy Seminar, University of Cambridge 報告，2004年2月

□翻訳

[1]（共訳）D. K. フォーリー・T. R. マイクル『成長と分配』日本経済評論社，2002年

[2] W. セムラー・E. J. ネル「イラク平和の経済的帰結」『情況』2003年10月

□資料等

[1]「鼎談／市場経済の神話とその変革（佐藤良一・芳賀健一・長原豊）」『情況』2000年11月号

[2]「ケーザイガクって，なんなの」『法政通信』2000年11月号

[3]「書評：スラヴォイ・ジジェク（長原豊訳）『いまだ妖怪は徘徊している！』」『週刊読書人』2001年2月2日号

[4]「市場経済の神話とその変革―〈平等主義的〉市場の可能性―／問題の所在をさぐる」（佐藤編）法政大学比較経済研究所，*Working Paper,* No. 95.，2001年

[5]「人間と社会のための新しい経済学的知に向けて—PEKEA プロジェクトが目指すもの—」マルク・アンベール（レンヌ第一大学）／聞き手佐藤良一（法政大学）清水和巳（早稲田大学）『情況』2002年10月

[6]「「構造改革」を reform する試みはいかにして可能か：佐藤真人／中谷武／菊本義治／北野正一著『日本経済の構造改革』に寄せて」『経済志林』2002年第70巻第3号

[7]「再生産表式」「マルクスの基本定理」「利潤率の傾向的低下法則」『岩波経済事典』（2004年7月刊行予定）

□学会報告等

[1] 経済理論学会第49回大会（於：駒澤大学）「平等主義的市場の可能性—Bowles＝Gintis の最近の所説をめぐって—」，2001年10月

[2] 進化経済学会（於：関西大学）「経済理論における主体：*Homo reciprocans* をめぐって」2002年3月

[3] PEKEA (Political Ethical Knowledge on Economic Activity) International Conference (University of Rennes 1, Rennes, France) 2003. Dec. 11-13. "'Efficiency' from the Perspective of the *'Social'*"

長　原　　豊

[論文]

「転覆的主体の〈包摂-存在〉論」『アソシエ』III，二〇〇〇年

"*Monsieur le Capital and Madame la Terre* Do Their Ghost-Dance: Globalization and the Nation-State," *The South Atlantic Quarterly,* 99(4), 2000

「睥睨する〈ラプラスの魔〉と跳躍」『ユリイカ　小林秀雄特集』二〇〇一

年五月号
「列外の系譜学」『文藝別冊　山田風太郎』二〇〇一年
「Talking A/Head: Queering "Making-Sense"」岡田編『カラヴァッジョ鑑』人文書院、二〇〇一年
「*Un/Le Pas Encore* de *la* Marx」『文学』一・二月号および同三・四月号，二〇〇二年
「帝国という軍事バベル」『現代思想』一月号，二〇〇二年
「資本・労働の吃音」『現代思想　ドゥルーズ特集』八月号，二〇〇二年
「端なき歴史制作 Vent d'E(s)t」『文藝別冊　ゴダール』二〇〇二年
「論理の論理的臨界」佐藤編『市場経済の神話とその変革』法政大学出版局，二〇〇三年
「生を対象-目的とする政治権力」『現代思想』七月号，二〇〇三年
「ドゥルーズ／ガタリにとって『資本』とは何か」『情況』一二月号，二〇〇三年
「非精確な歴史記述」『文藝別冊　小林秀雄』二〇〇三年
「『作物』栽培学　残酷な記憶術」『現代思想　マトリックス特集』一月号，二〇〇四年
「反時代的『確信』の問題について」『現代思想　藤田省三特集』二月号，二〇〇四年
「わたしの論文作法」『ユリイカ』二〇〇四年三月号
「われら瑕疵ある者たち」『現代思想　臨時特集　マルクス』二〇〇四年
「騙されぬ人びとは彷徨う」『ユリイカ　鬱特集』五月号，二〇〇四年

[対談]

長原豊＋M・ハート「帝国を超えて」『現代思想』二月号，二〇〇三年
長原豊＋松本潤一郎「ドゥルーズ／ガタリにとって『資本』とは何か」『情況』一二月号，二〇〇三年
長原豊＋絓秀美「煙――残余が抗う」『ユリイカ』一〇月号，二〇〇三年

長原豊＋小泉義之「派兵と自爆テロのあいだで」『図書新聞』二〇〇四年二月二八日

長原豊＋小泉義之「ジジェクという〈孔〉をめぐって」『情況』四月号，二〇〇四年

［翻訳］

M・ハート「帝国とイラク戦争」『現代思想』二月号，二〇〇三年

S・ジジェク『「テロル」と戦争』青土社，二〇〇三年

E・W・サイード『フロイトと非ーヨーロッパ人』平凡社，二〇〇三年

M・ハート「第二帝国，あるいはジョージ・W・ブッシュのブリュメール一八日」寺島ほか編『「イラク戦争」』岩波書店，二〇〇三年

A・バディウ『倫理』（松本潤一郎との共訳）河出書房新社，二〇〇四年

G・C・スピヴァク「理論に残されたもの／理論の左とは？」『現代思想臨時特集　マルクス』二〇〇四年

［書評］［新聞記事］を除く

田　村　晶　子

2000年～2004年の研究成果は、次のとおりです。

① "Comments on 'Foreign Direct Investment and R&D Spillovers: Is There a Connection?'" in *The Role of Foreign Direct Investment in Economic Development,* edited by Takatoshi Ito and Anne O. Krueger. The University of Chicago Press, 2000.

② 「研究開発と内生的成長における政府の役割」，野口・藤井・畑農編『公共政策の経済分析』，東京大学出版会，2002年，近刊予定(2004年)

③ 「国際技術移転と経済成長――研究開発補助金の効果を通じて」，日本公共政策学会2003年度研究大会報告論文集，2003年

②と③は、科学研究費補助金奨励研究(A)「国際間の技術移転における直接投資と特許ライセンスの役割」の助成を受けた研究成果です。②は，2002年9月に完成していますが，諸般の事情で出版が遅れ，2004年出版予定です。

④ "Book review: *Trade in Services in the Asia-Pacific Region,* Edited by Takatoshi Ito and Anne O. Krueger" Journal of Economic Literature, 2004, forthcoming

⑤ 「世界の工場中国と世界各国との貿易・直接投資に関する実証分析」，(胥鵬との共著)，2004年日本経済学会報告論文

⑤は、科学研究費補助金基盤研究(B)「中国企業の国際競争力に関する比較経済分析」の研究成果の一部です。2004年度は引き続き，中国・日本・アメリカの貿易・直接投資について比較研究を進める予定です。

後　藤　浩　子

2000年4月から2004年3月までの研究業績は以下のとおりです。

論　文

① 「スピヴァク―デリダ以後」(単)『大航海』(新書館) 2000年6月

② 「地下の微分術」(＋澤野雅樹，矢作征男)『現代思想』臨時増刊「数学の思考」，2000年10月

③ 「FK：迷宮と増殖」(＋澤野雅樹，矢作征男)『ユリイカ』2001年3

月号

④「狂気時計」(＋澤野雅樹，矢作征男)『現代思想』2001年4月

⑤「啓蒙の内なる外部性：スウィフトとバーク」(単)『社会思想史研究』第25号，2001年9月

⑥「始めから死んでいる世界」(＋澤野雅樹，矢作征男)『EUREKA Special』CD-Rom Magazine, Boid，2001年6月

⑦「子どもノート」(＋澤野雅樹，矢作征男)『ユリイカ』2001年10月号

⑧「リセットの軽さと重さ」(単)『現代思想』2002年2月号

⑨「政治的独立と便宜性：1780—82年アイルランドのイデオロギー的局面」(単)『経済志林』第69巻第4号，2002年3月

⑩「G・C・スピヴァク『文化としての他者』」(単) 江原由美子・金井淑子編『フェミニズムの名著50』平凡社，2002年7月

⑪「フェミニズム＝マイナー哲学における〈身体〉」(単) 金井淑子・細谷実編『身体のエシックス／ポリティクス：倫理学とフェミニズムの交叉』ナカニシヤ出版，2002年10月

⑫「グローバル社会のメンバーシップ：税金と市民権」(単)『現代思想』2002年12月号

⑬「諸力論序説：零度を穿つ波動」(＋澤野雅樹，矢作征男)『ユリイカ』2002年12月号

⑭「フェミニスト達の倫理的視線：権利を超えるための権利闘争」(単)『現代思想』2003年1月号

⑮「市場社会と平等：思想史的回顧」(単) 佐藤良一・法政大学比較経済研究所編『市場経済の神話とその変革：〈社会的なこと〉の復権』法政大学出版局，2003年3月

翻　訳

エックハルト・マインベルク『エコロジー人間学：ホモ・エコロギクス』

（共訳：壽福眞美）新評論，2001年７月

学会報告

社会思想史学会第25回大会（2000年10月）シンポジウム報告

その他

① 時評「21世紀へ向けてのリプロダクティヴ・ライツ」『女たちの21世紀』（アジア女性資料センター）no. 25，2003年６月

② 書評「C・I・McGrath, *The Making of the Eighteenth-Century Irish Constitution: Government, Parliament and the Revenue, 1692-1714*」『日本18世紀学会年報』第18号，2003年６月

③ 書評「山本正『「王国」と「植民地」：近世イギリス帝国のなかのアイルランド』」『歴史評論』2004年１月号

佐　柄　信　純

A．公刊論文

[1] "Nonparametric Maximum Likelihood Estimation of Probability Measures: Existence and Consistency", (2004): Accepted for publication in *Journal of Statistical Planning and Inference.*（同論文の縮約版：『京都大学数理解析研究所講究録』，近刊）

[2] "Stochastic Growth with a Likelihood-Increasing Estimation Process", (2002)：『日本応用数理学会年会予稿集』（日本応用数理学会）

[3] "Optimal Growth with Recursive Utility: An Existence Result without Convexity Assumptions", (2001): *Journal of Optimization Theory and Applications,* Vol. 109, No. 2, May, pp.371-383.

B．未公刊論文（作業中のものを含む）

[1] "Infinite Horizon Variational Problems with Recursive Objectives under Convexity Assumptions on the Second Order Derivatives", (2003): Faculty of Economics, Hosei University, mimeo.

[2] "Sequential Equilibrium with Incomplete Financial Markets under Bayesian Learning", (2002): Faculty of Economics, Hosei University, mimeo.

C．学会報告

[1] "Nonparametric Maximum Likelihood Estimation of Probability Measures: Existence and Consistency", 経済の数理解析（京都大学数理解析研究所），2003年11月

[2] "Stochastic Growth with a Likelihood-Increasing Estimation Process", 日本応用数理学会2002年度年会（慶應義塾大学理工学部），2002年９月

[3] "Sequential Equilibrium with Incomplete Financial Markets under Bayesian Learning", 日本経済学会春季大会（小樽商科大学），2002年６月

[4] "Weak Convergence of Probability Measures and the Kalai-Lehrer Metric", 2001 Far Eastern Meeting of the Econometric Society, Kobe, July 2001

[5] "Optimal Growth with Recursive Utility: An Existence Result without Convexity Assumptions", 経済の数理解析（京都大学数理解析研究所），2000年12月

[6] ——, The 5 th Decentralization Conference（大阪府立大学），2000年９月

D．外部からの研究資金

[1]　2002—2004年度：文部科学省　科学研究費補助金（若手B），「不完備な証券市場における主観的予想形成と異時点間の証券取引の統計的性質について」，研究代表者

[2]　2003—2004年度：文部科学省　私立大学研究高度化推進事業（学術フロンティア）「高齢化に関する国際共同研究（日本，中国，韓国）」，研究分担者（研究代表者：小椋正立　法政大学大学院エイジング総合研究所）

E．その他

2002年～　経済学検定試験（ERE）出題委員

F．現在の関心

不確実性下における異時点間の資源配分と経済主体の推論プロセスの均衡分析，非凸経済における最適成長経路の特徴付け，世代間の公平性の公理論的アプローチが現在の研究テーマ，問題の性質上，無限次元ベクトル空間を扱うことが多いため，関数解析学の経済学的応用にも強い関心がある。

G．総括

欧米の査読付きジャーナルに論文を載せることを最優先に研究を続けてきたが，投稿と書き直しの連続で辛酸を嘗めた4年間だった。しかし，レフリーに揉まれながら，論文が良くなるのを実感できたのも事実である．[A1] はレフリーの難題に応えるため，嫌々ながら文献をフォローしたところ，主要定理がnonparametricな密度関数の推定に応用できることに気付き，新しい結果をいくつか付け加えたことが論文アクセプトの決め手になった。[A2] は暫定的な成果発表．現在，査読付きジャーナルに再投稿し，その結果待ち。長きに渡り苦心した論文である

が，いい加減，早く成仏して欲しい（苦笑）。［A3］は書くのが楽だった上に，すんなりとアクセプトされ，パブリッシュの苦労を味わわずに済んだ。能力的制約から大量生産ができず，恥ずかしいかぎりであるが，今後も研究の質を落とさずに，研究領域を少しずつ広げていきたい。

西澤栄一郎

矢部光保，新田耕作，合田素行，西澤栄一郎「阿蘇草原景観のCVMによる経済評価：寄付と税再配分の支払形態に関する比較分析」『地域学研究』第30巻第1号，pp.183-195，2000年10月。

大村道明，両角和夫，合田素行，西澤栄一郎，田上貴彦「北海道士幌町における農業と関連産業のLCA」『2000年度　日本農業経済学会論文集』pp.183-185，2000年10月。

西澤栄一郎「アメリカの流域管理における排出取引制度」『水利科学』第44巻第5号，pp.1-11，および第6号，pp.49-71，2000年12月および2001年2月。

西澤栄一郎「チェサピーク湾の環境保全」『アメリカにおける農村地域政策の展開に関する調査』第5章，pp.68-88，農政調査委員会，2001年3月。

西澤栄一郎「アメリカの保全休耕プログラム」合田素行編『農業環境政策と環境支払い―日本と欧米の対比―』農業総合研究所研究叢書第124号，第4章，pp.143-172，2001年3月。

「アメリカの農業環境政策：回顧と展望」（解題と翻訳）『のびゆく農業』920，2001年11月。

西澤栄一郎，田上貴彦，合田素行，両角和夫，大村道明「ヨーロッパ各国におけるバイオガスシステムの普及要因」『2001年度　日本農業経済学会論文集』pp.258-263，2001年12月。

西澤栄一郎「生乳生産停滞の背景と構造　(2)B県の調査報告」『平成13年度　大家畜生産基盤強化促進特別事業　特定課題研究　報告書』中央酪農会議，pp.15-23，2002年3月。

西澤栄一郎「調査結果　24. 現在使用しているふん尿処理施設　等」『平成13年度　酪農全国基礎調査（酪農家分析編）報告書』中央酪農会議，pp.142-175，2002年3月。

西澤栄一郎「農村転居者の職業」『平成13年度　農村地域の活性化に資する農業農村整備のあり方検討調査報告書』日本農業土木総合研究所，pp.16-21，2002年3月。

西澤栄一郎「環境にやさしい農村とは」『法政通信』No. 326，pp.2-6，2002年6月。

西澤栄一郎「集水域の環境保全と成長管理—2000年チェサピーク湾協定への数値目標導入をめぐって—」『水利科学』第46巻第4号，pp.1-23，2002年10月。

大村道明，両角和夫，田上貴彦，西澤栄一郎，合田素行「農業分野へのLCA適用の動向と展望」『2002年度　日本農業経済学会論文集』pp.170-172，2002年12月。

Nishizawa, Eiichiro, Effluent Trading for Water Quality Manage-

ment: Concept and Application to the Chesapeake Bay, *Marine Pollution Bulletin,* Vol. 47, Issues 1-6, pp.169-174, Jan.-June 2003.

西澤栄一郎「オランダにおける家畜糞尿政策の展開」『2003年度　日本農業経済学会論文集』pp.496-501，2003年12月。

武　田　浩　一

2000年度から2003年度の主要な業績は以下のとおりです。

論文

- 武田浩一「債権者間の協調の失敗と大口債権者：研究ノート」『経済志林』第71巻第1号，191-221，法政大学経済学会，2003年。
- 武田浩一・武田史子「企業行動に与えるファンダメンタル情報の経済分析：公表情報，私的情報と負債の価格付け」『金融危機における情報システム投資の経済学的評価手法の開発』科学研究費補助金研究成果報告書（研究代表者：鵜飼康東），136-159，関西大学経済政治研究所，2003年。
- Koichi Takeda "The Role of Large Creditors in Creditor Coordination Games" ICES Discussion Paper, 2003-E-001, Institute of Comparative Economic Studies, Hosei University, 2003.
- Fumiko Takeda and Koichi Takeda "Public Information, Private Information, and the Price of Debt in a Creditor Coordination Game with Large and Small Creditors" RCSS Discussion Paper, 9, Research Center of Socionetowork Strategies, Institution of Economic and Political Studies, Kansai University, 2003.
- 武田浩一・武田史子「債権者間の協調の失敗と負債の価格付け：公表情報，私的情報と大口債権者の役割を中心に」ICES Discussion Paper,

2003-J-001，法政大学比較経済研究所，2003年。

・Fumiko Takeda and Koichi Takeda "The Price of Debt in a Creditor Coordination Game with Large and Small Creditors" ICES Discussion Paper, 2003-E-002, Institute of Comparative Economic Studies, Hosei University, 2003.

・Koichi Takeda "The Influence of Large Creditors on Creditor Coordination" *Economics Bulletin,* Vol. 7, No. 6, pp. 1-11, Publishers of Economics Bulletin, 2003.

・武田浩一・武田史子「債権者と企業の協調と追い貸し」ICES Discussion Paper, 2003-J-002，法政大学比較経済研究所，2004年。

学会報告

・武田浩一「債権者間の協調の失敗と大口債権者」日本金融学会2003年度春季大会，2003年6月。

・武田浩一・武田史子「債権者間の協調の失敗と負債の価格付け：公表情報，私的情報と大口債権者の役割を中心に」日本金融学会2003年度秋季大会，2003年10月。